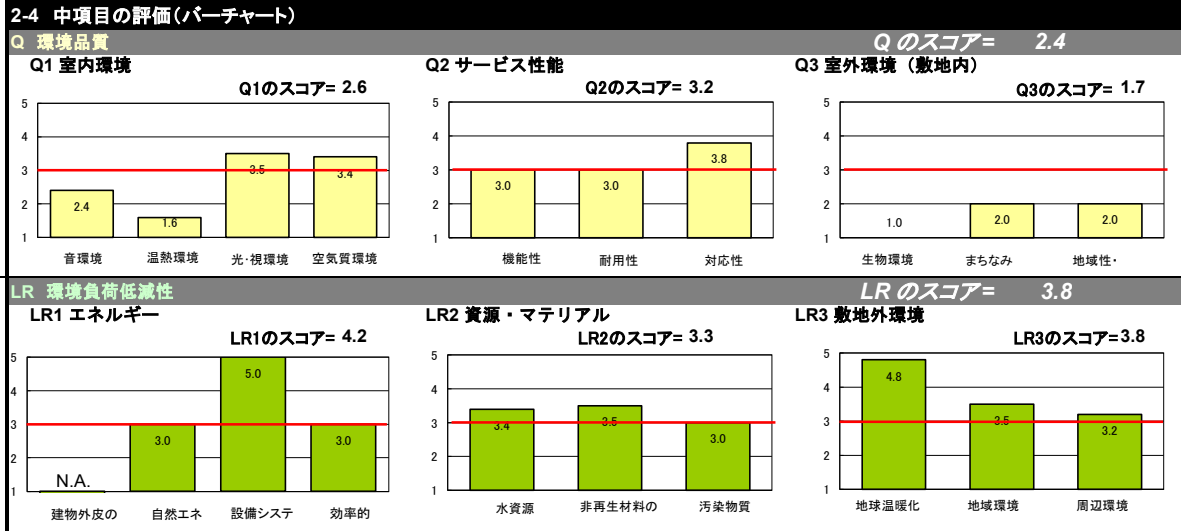
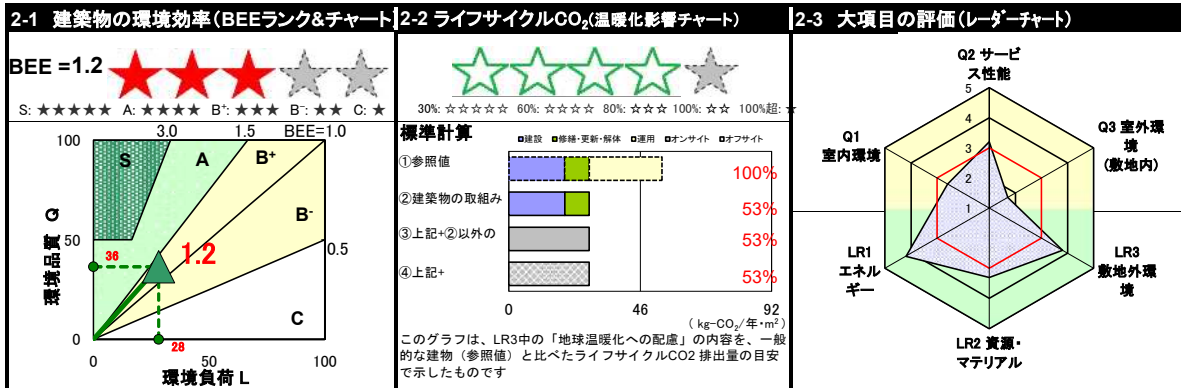


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フジデロ株式会社 本社・第二工場	階数	地上1階
建設地	愛知県小牧市多気町340番、341番、342番1、342番2、343番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	39 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,952 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年9月5日
敷地面積	3,989 m ²	作成者	半谷彰英
建築面積	2,372 m ²	確認日	2025年9月5日
延床面積	2,372 m ²	確認者	半谷彰英



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.8	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.4	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
フジデノロ株式会社 本社・第二工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄						評価点	評価点	全体
Q 建築物の環境品質											2.4
Q1 室内環境											2.6
1 音環境											2.4
1.1 室内騒音レベル									0.1	2.4	0.15
1.2 遮音									3.0	3.0	0.40
1 開口部遮音性能									0.4	1.0	0.40
2 界壁遮音性能									-	1.0	0.60
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	-	0.40
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	-	-
1.3 吸音			天井に岩盤吸音板、床にカーベットタイルを使用						-	4.0	0.20
2 温熱環境									0.3	1.6	0.35
2.1 室温制御									0.5	2.2	0.50
1 室温									3.0	1.0	0.38
2 外皮性能									3.0	3.0	0.25
3 ゾーン別制御性									3.0	3.0	0.38
2.2 湿度制御									3.0	1.0	0.20
2.3 空調方式									3.0	1.0	0.30
3 光・視環境									0.2	3.5	0.25
3.1 昼光利用									0.3	4.2	0.30
1 昼光率			2.5%≤5.3%						3.0	5.0	0.60
2 方位別開口									3.0	3.0	0.40
3 昼光利用設備									0.3	3.0	0.30
3.2 グレア対策									3.0	3.0	1.00
1 昼光制御									3.0	4.0	0.15
3.3 照度			事務室作業面:893lx						3.0	3.0	0.25
3.4 照明制御									-	-	-
4 空気質環境									0.2	3.4	0.25
4.1 発生源対策									0.5	3.0	0.50
1 化学汚染物質									3.0	3.0	1.00
4.2 換気									0.3	3.6	0.30
1 換気量									3.0	3.0	0.33
2 自然換気性能			0.094>0.066(1/15)						3.0	5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮									3.0	3.0	0.33
4.3 運用管理									0.2	4.0	0.20
1 CO ₂ の監視									3.0	3.0	0.50
2 喫煙の制御			館内禁煙						3.0	5.0	0.50
Q2 サービス性能									-	-	0.30
1 機能性									0.4	3.0	0.40
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	2.6	0.40
1 広さ・収納性									3.0	1.0	0.33
2 高度情報通信設備対応									3.0	3.0	0.33
3 バリアフリー計画	独自		望ましい基準を満たしている						3.0	4.0	0.33
1.2 心理性・快適性									0.3	2.6	0.30
1 広さ感・景観 (天井高)			事務所の天井高2.7m						3.0	4.0	0.33
2 リフレッシュスペース									3.0	3.0	0.33
3 内装計画									3.0	1.0	0.33
1.3 維持管理									0.3	4.0	0.30
1 維持管理に配慮した設計									3.0	5.0	0.50
2 維持管理用機能の確保			防汚性の高い内装、床仕上げ、過度な水仕様可、一室で異なる床材の使用なし、段差のない床設計						-	3.0	0.50
2 耐用性・信頼性									0.3	3.0	0.31
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.4	3.0	0.48
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.0	3.0	0.80
2 免震・制震・制振性能									3.0	3.0	0.20
2.2 部品・部材の耐用年数									0.3	3.2	0.33
1 躯体材料の耐用年数									-	3.0	0.23
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									-	2.0	0.23
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									-	5.0	0.09
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									-	3.0	0.08
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									-	5.0	0.15
6 主要設備機器の更新必要間隔									-	3.0	0.23
2.4 信頼性									0.1	2.6	0.19
1 空調・換気設備									3.0	3.0	0.20
2 給排水・衛生設備									3.0	2.0	0.20
3 電気設備									3.0	3.0	0.20
4 機械・配管支持方法									3.0	3.0	0.20
5 通信・情報設備									3.0	2.0	0.20

3 対応性・更新性				0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			5.7m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			0.1≦0.11<0.3	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.8	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	4.0	0.22	-	-	-	
ケーブルラック、電線管使用 電線管の使用 中央式空調設備を持たない バックアップスペースの確保										
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.40	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.8
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			グリーン購入法対象品使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.25	-	-	-	
洋風便器CS232B シャワートイレTCF6623 自動洗浄壁掛小便器UFS900R 鉄骨下地、OAフロア、石膏ボード			独自							
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			①	-	4.8	0.33	-	-	-	4.8
ライフサイクルCO2排出率53%										
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器不使用	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	2.0	0.25	-	-	-	
適切な駐輪場、駐車場、荷引きスペースの確保										
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの一部を満たす。広告照明を行っていない	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

フジテノロ株式会社 本社・第二工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目（配慮項目）		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化：10.6%/建物緑化：0%	
④ 地域材の活用		（評価ポイント）			1.0
Q3-2 4）	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2）	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 フジデノロ株式会社 本社・第二工場

計画上の配慮事項	
総合	・周囲の景観に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆建材を使用。 ・全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮。
Q2 サービス性能	・階高にゆとりを持たせ、建物自由度を高めた。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー	・太陽光発電を採用し電気使用量の削減 ・一部にLow-eガラスを採用し、遮熱性を高めた。
LR2 資源・マテリアル	・ノンフロン断熱材を採用することで、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	コンプレッサー周囲に防音壁を設け騒音に配慮
その他	